



特集 I

草の根の友好が繋いだ友情の橋

多久市日中友好協会

多久市は1993(平成5)年に中国の曲阜市と友好都市を結び、今年で26年を迎えます。締結には、時代の情勢に左右されず、地道に友好の絆を築いて来た「多久市日中友好協会」の民間外交の取り組みがありました。市民による35年に渡る、その歩みをご紹介します。



多久市曲阜市
友好都市締結



孔德懋女史
友好都市締結 5 周年
「市民の翼」訪中の折



中国への思い

「多久市日中友好協会」は第2次世界大戦の敗戦で、中国、満州、台湾、朝鮮半島などから多久に移り住んだ引揚者が中心となり、1983(昭和58)年8月6日に設立されました。

理事長の尾形節子さんは、「小学5年生まで中国の済南市で過ごし、お世話になった中国人が引き揚げの準備を手伝ってくれたことも覚えています。1978年に日中平和条約が締結されたのを機に、多久市でも日中友好協会を立ち上げると聞き、懐かしさと良くしてもらったことへの感謝の気持ちから参加しました」と当時を振り返ります。

会員の中から、多久の宝である久聖廟を生かし、孔子・生誕地である曲阜市と友好都市の締結を結んではどうかという声が上がりました。会では、早速翌年に第1次訪中団を結成し、代表35人が友好都市の締結を目ざして曲阜市や中国各地を訪問しました。

「私たちが日中の友好を築くんだ。」

自分たちの振る舞いにかかっていると、みんな緊張していました。その一方で、50年ぶりに訪れた中国は昔と変わっておらず、懐かしい気持ちになりました。何度も訪中団を結成し、誠実に対話を重ねた結果、1989(平成元年)には孔子直系の子孫・孔德懋女史と曲阜市副市長を多久にお迎えできました。さらに胡弓演奏家の趙国良さんが腰鼓を市へ寄贈してくださり、民間での交流を深めていくことができました。」と尾形さん。

そして、多久市日中友好協会設立から10年経った1993(平成5)年11月23日、多久市と曲阜市は、友好都市を締結しました。



右／高屋ハマ子さん

中央／理事長 尾形節子さん

左／事務局長 土橋哲也さん

